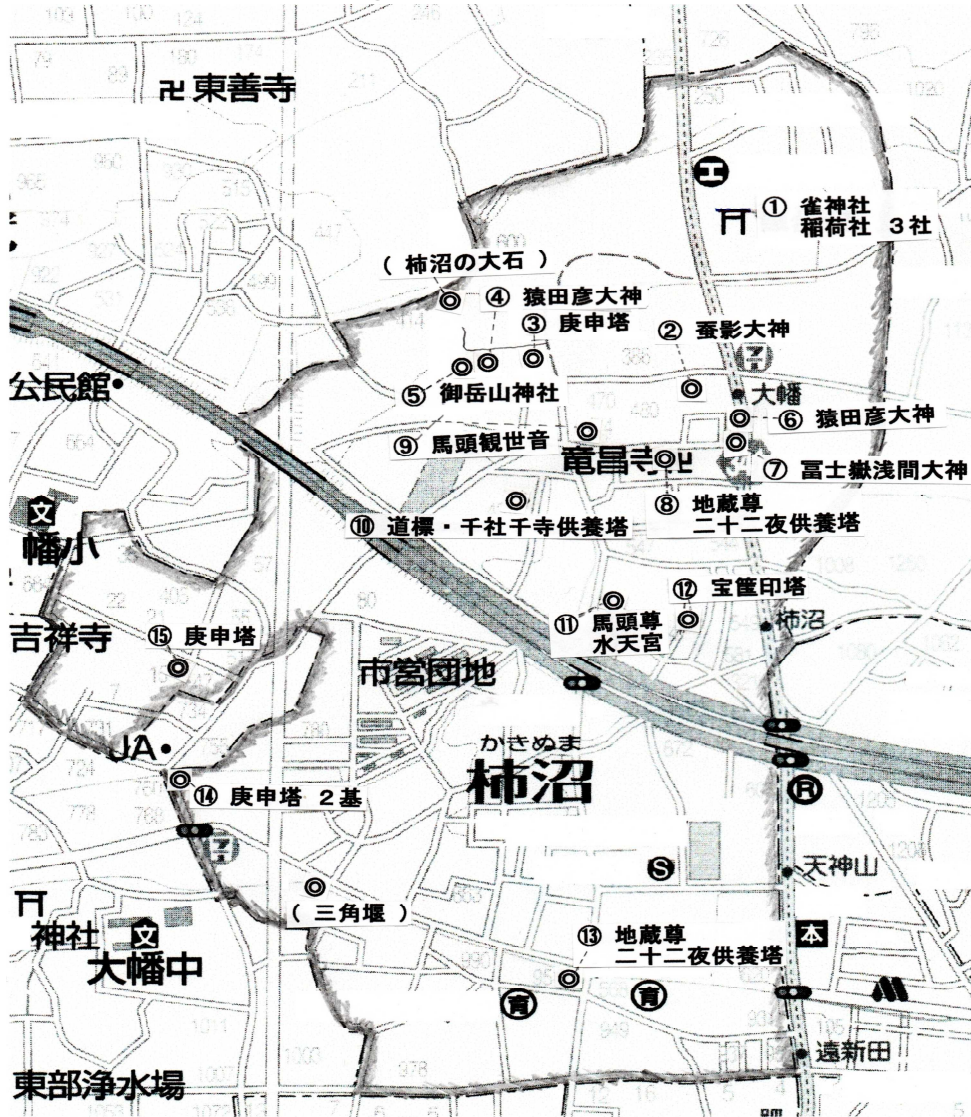


郷土こぼれ話

地域の神様 ⑨ 柿沼の神様たち



柿沼には、地域のあぶすま神（旧村社）「雀神社」の他にもたくさんの神様があります。江戸時代の頃に作られたと思われていますが、その頃人家があり人が通るための道ができていたことが偲ばれます。

お米や水・季節の果物がお供えされ、お詣りされていると思われるものもあれば、碑が倒れているものもあります。全て確認されていますが、お詣りしづらいものもあります。通りがてら、また散歩のついでに確認していただくことも素晴らしいことだと思います。

□宝篋印塔 ほうきょういんとう 古く中国で呪文を収めた塔。後に供養塔として建てられた。呉越王銭弘俶が建立した塔を模して日本でも建てられた。

□庚申塔 こうしんとう 中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石塔のこと。

□猿田彦 ざるたひこ 日本神話に登場する神様。天孫降臨のとき、天照大神に遣わされた瓊瓊杵尊を道案内した神。中世には 庚申信仰や道祖神と結びついた。道するべや旅の神様、 また足の健康を願う神様とも言われた。

□馬頭観音 仏教における信仰対象である菩薩の一尊。観音菩薩の化身で、六観音の一尊にも数えられている。馬のみならず、あらゆる畜生類を救う守護仏として祀られている。

□柿沼の大石 神様とは異なるが、併記させていただく。大幡公民館だより、平成25年6月号・8月号に掲載した「大幡の昔ばなし」③ “うなり石”の基となった大石。川の端にある。西裏堀が金付免堀と南堀に分かれる所にある。川の分岐点で水門のような働きをしたと伝えられている。

参考文献：「柿沼の歴史」柿沼自治会・四分一芳治著
文・地図：むらた ひとし